

唐丹の歴史いろいろ(五)

大船渡市

木村正継



江戸末期に発生した唐丹に
関係の深い二つの一揆を
紹介したいと思います。

一揆勢の申し出によると
前日の六月五日、一揆は釜
石まで、二万五千人程で来

田村の肝入猪又市兵衛の「平
田番所では大勢の鉄砲隊が
筒先を揃えて待ち構えている
」との話(実際には一揆
の指導者弥五兵衛達は人を
派遣して、平田番所の警戒
が手薄になっていくのを知っ
ていたが関所破りになると
後々仙台藩との交渉に障害
になるかも知れないと思い
篠倉越えを選択したよう

端微塵に壊されてしまいま
した。
応対に当たった唐丹村の
肝入三浦与左衛門に対して
一揆の代表者は、「私共は南
部野田通・宮古通・大槌通・
上田通(小川三ヶ村)等石
通り村々の百姓共でござい
ます。
国政がよくない為に南部
藩で永住して、農業で生計

従って下さい」と申し渡し
引き取らせた。
その夜百姓達は野宿した
様で、翌日には、唐丹(本
郷)ばかりでは宿不足なの
で、花露辺や小白浜にも宿
を割り当てた。
仙台藩が一揆勢のために
準備した食事は、初日は夕
食のみ、二飯に味噌(一食
に十匁)、翌七日は朝晩二飯
に味噌、八日から朝晩共飯
に汁付きとなる。

三閉伊大一揆

唐丹に越訴(一)

一八五三年(嘉永六年)
六月六日、三閉伊通りの百
姓達八千五百六十五人が篠
倉峠から唐丹に越境して来
ました。(※石塚峠を十数人
越えて来たと言う説もある)

前年の秋頃に下有住の人
達の所には事前に越境する
つもりだとの話を持ち込ん
でいたので噂はあったかも
しれませんが、唐丹では村
の人口の何倍もの人に突然
押しかけられさぞ驚いたこ
とでしょう。

今回から何回かにわたり

たが老人・子供・女や病身
の者等が数多く居たので家
に帰し、一万五千人余りが
残ったとのことだった。
(田野畑風土記では一万六
千二百五十人)

一揆勢は遠野に越訴(えつ
そ)境を越えて訴える)す
ると言いふらし、平田番所
を突破する予定だったが平

ある)に進路を変更、足の
弱い者を釜石に残して八千
五百六十五人が平田の番所
を迂回して遠野に向かうと
見せ、午後四時過ぎ篠倉峠
から唐丹村に越境して来ま
した。

市兵衛の為に一揆勢が非
常に苦勞したので帰国する
時には、市兵衛の家は木っ

を立てることが出来ないの
で立退いてまいりました。
このこととお願ひしたい
事がございます」との口上
だった。

それに対して三浦与左衛
門は「至極もつともですが
当方の責任者は大庄屋吉田
宇右衛門と申す方ですので
その人に申し出て差し函に

(吉田大肝入一揆記録)
汁は豆腐(二、二〇丁)
か生麩(一、二一〇本)が
用いられた。
二飯味噌の時も飯・汁の
時も一食は、米二合五勺だっ
た。

- 六月六日 八、五六五食
- 七日 六、二七六食
- 八日 四、〇一五食
- 九日 四、〇一五食
- 十日 四、〇一五食
- 十一日 四、〇〇六食
- 十二日 四、〇〇五食
- 十三日 三、九八二食
- 十四日 三、九八二食
- 十五日 三、九八二食